



取組事例の名称	啓開作業時のマルチビームソナーとサイドスキャンソナーによる被災状況調査
<p>3. 工事等の実施に当たっての課題や留意した事項、苦労した事柄・教訓</p> <p>ナローマルチビームソナーによる測量は低速で行うため、高速で曳航することで浮力を得る構造のサイドスキャンソナーが沈まないよう、俵ブイを取り付けて測量を行った。</p> <p>サイドスキャンソナー本体が重く、船上でバランスを取りながら艀装することが難しかった。</p>	
<p>4. 実施後の成果に対する発注者や地元住民等の評価</p> <p>ナローマルチビームソナーとサイドスキャンソナーの組み合わせにより海底の様子を精緻に把握可能になったため、異常物の取りこぼし低減への寄与に対しては発注者には満足いただけただと思う。</p>	
<p>5. 採用した技術に対する改善点、望まれる技術</p> <p>NMB測量結果との統合</p> <p>異常物の位置と深度をNMBで、形状をサイドスキャンソナーの画像で表示することで、撤去チームにより分かりやすい情報を提供することが可能になると考える。</p>	
<p>6. 今回の取組を通じ、将来の災害対応の為に準備すべきと感じた事項</p> <p>海底・海中の可視化を早急に実現するシステム</p> <p>障害物の位置を特定できないことには障害物撤去を行えないため、可視化の効率を向上させることが早期復旧につながると思う。</p>	
NETIS登録	